

在原業平生誕 1200 年記念 特別展

伊勢物語

美術が映す
王朝の恋とうた



Special Exhibition for the 1200th Birthday of Ariwara no Narihira

The Tales of Ise: Courtly Love and Poems Reflected in the Arts

伊勢物語図(西の対) (部分) 板谷広長 江戸時代 18世紀 根津美術館蔵 小林中氏寄贈

平安時代前期に活躍した^{ありわらのなりひら}在原業平(825~880)は、天皇の孫で、和歌に優れた貴公子です。『古今和歌集』などに収められる業平の和歌からは、恋多き生き方も浮かび上がってきます。そうした業平の和歌を中心とする短編物語集が『伊勢物語』です。『古今和歌集』が成立する延喜5年(905)より少し前から10世紀後半にかけて徐々に章段を増し、やがて125段からなる形が定着しました。

続く11世紀初頭に書かれた『源氏物語』の^{えあわせ}「絵合」巻には、絵の優劣を競う遊びのなかで伊勢物語絵巻が登場し、この物語がすでに絵に描かれていたことをうかがわせます。以降、『伊勢物語』は、『源氏物語』と並び、日本の文化・芸術のあらゆる分野に多大な影響を与えることになります。

2025年は業平の生誕1200年にあたります。それを記念して『伊勢物語』が生み出した書、絵画、工芸を一堂に集める展覧会を開催します。『伊勢物語』の核心をなす和歌に焦点をあわせ、それを味わいながら、また『伊勢物語』の造形化における和歌の働きに注目しながら、ご覧いただきます。

2025年 11月1日(土)~12月7日(日) 日時指定予約制
根津美術館 NEZU MUSEUM <https://www.nezu-muse.or.jp>



第1章 在原業平と伊勢物語－古筆と古絵巻－

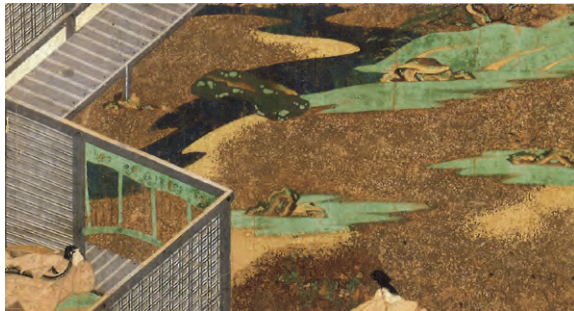
印刷技術が発達する以前、物語は写本、あるいは書写した本文に絵を添えた絵巻や絵本のかたちで享受されました。しかし、『伊勢物語』が成立した平安時代に遡る遺例はごくわずか。鎌倉時代になると少し数が増えますが、写本の多くは古筆切、また絵巻も一部分が伝わるのみです。断片ではあるものの、美しい文字や絵とともに物語をよりよく味わおうとする気持ちがうかがえます。時の流れを下って現代にたどり着いた、中世以前の『伊勢物語』の美術をお目に入れます。



初公開

ありわらのなりひら
在原業平像
室町時代 16世紀
根津美術館蔵

在原業平は六歌仙のひとりに数えられる歌詠みとして名高い。画像は束帯を着して上畳に坐し、右手に筆を、左手に紙を持って和歌を案じる姿に描かれる。同図様の業平像として南北朝時代の先行作（個人蔵）があるが、それに次ぐ年代の遺品として貴重。



重要文化財
伊勢物語絵巻（部分）
鎌倉時代 13～14世紀
和泉市久保惣記念美術館蔵
※11/1～11/16のみ展示

『伊勢物語』を題材とした彩色絵巻の中でもっとも古い作品。第23段の「立田越え」は、新しい女のもとに通う夫を妻は快く送り出し、道中の無事を祈る歌を詠んだので、その歌に感じ入った夫は女を訪ねることをやめたという話。夫を気遣う妻と、出かけたふりをして邸内をうかがう夫を描く。

伊勢物語切
ふじわらのきんとう
伝 藤原公任
平安時代 12世紀
五島美術館蔵
※11/18～12/7のみ展示



平安時代に書写された現存最古の『伊勢物語』の冊子本の断簡。褐色の染紙に雲母砂子と銀の切箔で装飾した料紙が美しい。現存唯一の断簡として知られてきたが、新たに5行分が発見され、その新出の断簡（個人蔵）も出品される。

第2章 描かれた伊勢物語－歌とともに－

『伊勢物語』の享受の歴史で画期となったのは、江戸時代のはじめに挿絵入りの版本（嵯峨本）が出版されたことです。これによって物語がより多くの人々に読まれるとともに、その絵画表現に対する関心を高め、ひいては多様な作品が生み出されることになります。そうした絵画作品がしばしば和歌をともなう事実、『伊勢物語』の魅力の在処を明瞭に示しています。一方で、和歌的な情趣を超えて王朝の恋をドラマティックに描く作品が登場するのも、近世ならではです。



伊勢物語図
ゆ みず かず
と さ みつおき
土佐光起
江戸時代 17世紀
個人蔵

第50段、互いの浮気心をめぐり女が詠んだ「行く水に数かくよりも」からはじまる和歌の情景を描く。非現実の歌の世界を表す画中にさらに男の返歌が書され、表現は重層化する。土佐光起（1617～91）による典雅な大和絵作品。



重要文化財
伊勢物語 梓弓図
岩佐又兵衛
江戸時代 17世紀
文化庁蔵

第24段の「梓弓」。3年の宮仕えから戻った男が女を訪ねるものの、別の男から求婚された女は受け入れず、男は去る。閉ざされた門の前に一人立つ男の姿に、孤独感とやるせなさがにじむ。岩佐又兵衛（1578～1650）による新たな伊勢物語絵の誕生である。



伊勢物語 八橋図
冷泉為恭
江戸時代 19世紀
大和文華館蔵

第9段、わけあって東国へ下る男が途中、橋が八つかかる水辺に咲くカキツバタを目にし、都に残した女を思って詠う場面。冷泉為恭（1824～64）は大和絵に近代的な感覚をもたらした画家。金銀泥によるカキツバタを描き表具にして趣向を凝らす。

第3章 伊勢物語の意匠－物語絵と歌絵のあわい－

『伊勢物語』の絵画には、物語のストーリーを描くものと、数は多くないものの、そこで詠われる和歌の内容や情景を描くものがあります。言い換えればそこには、「物語絵」とともに、「歌絵」の伝統が息づいているのです。時に歌のモチーフのみを表す「歌絵」は、工芸におけるいわゆる留守模様とも関わりながら、『伊勢物語』の美術に文芸の香り高い意匠性を加えます。

『伊勢物語』に登場する全209首の和歌と絵からなるかるたなども交え、その多様な享受の有様をご覧ください。



せんめんかん いかん
扇面歌意画卷（部分）
江戸時代 17世紀
根津美術館蔵

和歌とその歌を連想させる扇型の絵を集めた「扇の草子」と称される作品の一つ。全100首の和歌のうち29首が『伊勢物語』からとられている。第9段の「八橋」の場面で詠われる和歌が書かれた扇には、橋とカキツバタだけを描く。



やつはし まき えすずりばこ
八橋蒔絵硯箱
江戸時代 17世紀
サントリー美術館蔵

「八橋」の場面の和歌は、「かきつばた」の5文字を五七五七七の各句の初めに据えて詠まれた。この硯箱の意匠は、歌を導き出すモチーフだけで物語の情趣、さらに歌そのものを想起させる。工芸における人物を排した留守模様は「歌絵」と関係が深い。

そのほかの展示作品より

- ・梵字経刷白描伊勢物語絵巻断簡 鎌倉時代 個人蔵ほか
後に刷られた梵字経の背後に物語世界が清楚に展開
- ・伊勢物語図色紙 南北朝～室町時代 香雪美術館蔵
久保惣本と酷似する図様をもつ注目の伊勢物語絵
- ・嵯峨本伊勢物語 江戸時代 慶長13年(1608) 国立公文書館蔵
物語を普及させた挿絵入り版本、なかでも美本を展示
- ・伊勢物語絵巻 住吉如慶 江戸時代 東京国立博物館蔵
伝統を踏まえつつ創意に満ちた近世絵巻の大作 ※展示は巻1と巻6
- ・伊勢物語図色紙 恋せじの禊 伝 俵屋宗達 江戸時代 東京黎明アートルーム蔵
古絵巻の図様にもとづく伊勢物語絵のルネサンス
- ・伊勢物語八橋図 尾形光琳 江戸時代 東京国立博物館蔵
光琳は第9段の「八橋」が大のお気に入り
- ・宇津の山図 酒井抱一 江戸時代 個人蔵
同じく第9段、「宇津の山」を好んだ抱一の新出作品
- ・御ひいなかた 江戸時代 寛文6年(1666) 天理大学附属天理図書館蔵
現存最古の小袖デザイン集に伊勢物語意匠を探る
- ・伊勢物語かるた 江戸時代 和泉市久保惣記念美術館蔵
物語に登場する全209首の和歌と絵からなるかるた
- ・業平蒔絵硯箱 伝 尾形光琳 江戸時代 根津美術館蔵
展覧会の最後を飾る業平イメージ

※会期中、一部展示替えがあります。

*東京・三井記念美術館では開館20周年記念特別展「生誕1200年 歌仙 在原業平と伊勢物語」(2026年2月21日～4月5日)を開催予定です。

講演会

「伊勢物語の美術を彩る業平の恋と歌」

講師：河田 昌之氏（和泉市久保惣記念美術館 館長、本展監修者）

日時：11月8日（土） 午後2時～3時30分

会場：根津美術館 講堂

スライドレクチャー

担当学芸員がスライドを使って展示解説を行います。

日時：11月7日（金）、11月28日（金） いずれも11時30分～12時15分

※2回とも同内容です。

会場：根津美術館 講堂

※ いずれも当館ホームページからの参加お申込み、美術館入館料が必要です。

特別催事

能舞「井筒」

日時：11月21日（金） 午後2時～3時

出演：九世 観世鍔之丞 氏（能楽師）

※ 参加方法、料金などの詳細は追って当館ホームページにてお知らせいたします。

「秋の三館 美をめぐる」キャンペーン

三井記念美術館、五島美術館と当館では、以下の展覧会を対象に三館合同キャンペーンを行います。

三井記念美術館 2025年9月26日（金）～11月24日（月・振休） 開館20周年記念特別展「円山応挙—革新者から巨匠へ」

五島美術館 2025年10月28日（火）～12月7日（日） 特別展「古染付と祥瑞—愛しの青—」

根津美術館 2025年11月1日（土）～12月7日（日） 在原業平生誕1200年 特別展「伊勢物語—美術が映す王朝の恋とうた—」

※上記展覧会の観覧済み入館券を、他2館の上記展覧会入館時にご提示いただくと、入館料が100円引きになります。

詳細は各館ホームページをご覧ください。

展示室3 仏教美術の魅力—近世の仏像—

日本では、江戸時代以降膨大な数の仏像が制作されてきました。この度は、館蔵の近世仏像の中でも優品を3件ご覧いただけます。

あいぜんみょうおうざう
愛染明王坐像
日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵



展示室6 口切の茶事

11月、茶席では茶壺の口の封を切り、この年の初夏に摘んだ新茶をいただくようになります。茶の湯の新しい一年の始まりです。

かたぬぎちやうぼ ながと
肩脱茶壺 銘長門
福建
中国・元～明時代 14～15世紀
根津美術館蔵



「肩脱」とは口から肩にかけて釉薬が施されていない茶壺を指す。本作は、封をするときに使用された覆い紙が残存する加賀藩前田家伝来品。

開催概要

展覧会名 在原業平生誕 1200 年記念 特別展 伊勢物語—美術が映す王朝の恋とうた—

日時指定予約制

スムーズなご入館と快適な鑑賞のために、当館ホームページで日時指定入館券をご購入ください。(招待はがき等をお持ちで入館料無料の方もご予約ください。)

主催 根津美術館

開催期間 2025 年 11 月 1 日 [土]～12 月 7 日 [日]

開館時間 午前 10 時～午後 5 時 (最終入館 午後 4 時 30 分)

休館日 毎週月曜日。ただし 11 月 3 日 (月・祝)、11 月 24 日 (月・祝) は開館、翌火曜休館

入館料 オンライン日時指定予約 一般 1500 円 (1300 円) 学生 1200 円 (1000 円)

- ・() 内は障害者手帳提示者及び同伴者 1 名の料金。中学生以下は無料。
- ・当日券 (一般 1600 円、学生 1300 円) も販売しております。
(ご予約の方を優先してご案内いたします。当日券の方はお待ちいただくことがあります。
混雑状況によっては当日券を販売しないことがあります。)
- ・2025 年 10 月 21 日 [火] 午後 1 時より当館ホームページで予約を受け付ける予定です。
- ・ご予約は 1 グループ 10 名までとさせていただきます。

アクセス 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅下車 A5 出口 (階段) より徒歩 8 分、
B4 出口 (階段とエスカレータ) より徒歩 10 分、B3 出口 (エレベータまたはエスカレータ) より徒歩 10 分

住所 〒107-0062 東京都港区南青山 6-5-1

お問い合わせ Tel. 03-3400-2536 (代表)
website <https://www.nezu-muse.or.jp>

広報・取材の
お問合せ 学芸部 広報課 所／村岡
Tel. 03-3400-2538 (直通) e-mail: press@nezu-muse.or.jp

当館の広報制作物に関して、郵送からメール配信への切り替えをご希望の方は、根津美術館 広報課へ
どうぞお知らせください。(press@nezu-muse.or.jp)

次回展

企画展「^{あやしき}綾錦—近代西陣が認めた染織の美—」

2025 年 12 月 20 日 [土]～2026 年 2 月 1 日 [日] (12 月 27 日～1 月 5 日 年末年始休館)

初代 根津嘉一郎 (1860～1940) は、大正期に京都・西陣で行われた染織展示に 20 点以上もの能装束や更紗古裂を出品しました。その際制作された図案集『綾錦』を紐解き、初代 嘉一郎の所蔵品を通して、近代の西陣で理想とされたデザイン的一端をご覧ください。



左：古更紗帖 インド他 17～18 世紀
右：唐織 薄茶地石畳団花に三扇散模様
日本・江戸時代 19 世紀
いずれも部分・根津美術館蔵